

2020年12月27日(日)朝10:10
12月第4年末共同主日礼拝式説教

降誕節第1、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：からし種のひと粒の信仰(20～)

聖書:マタイ 17章14～20節

<口語訳>

新約聖書27～28頁

マタイ 17章14～20節

<新共同訳>

新約聖書33～ 頁

マタイ 17章14～20節

<新改訳第3版>

新約聖書34～35頁

マタイ 17章14～20節

<塚本訳>

新約聖書120～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇ **マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇ 本日は、**マタイ17:14～20節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、群衆のひとりの癲癩の息子を癒し、「**悪霊**」を追い出して下さいました。
- ⇒ 主は、弟子たちをはじめ、周囲の人々の不信仰を嘆かれました。
- ⇒「**癲癩**」は、「月に打たれて病む」というのが、言語の意味だそうで、当時は、月の満ち引きでよく起こるので、何らかの月の影響を受けていると考えたようです。
- ⇒ 弟子たちは、この度は、「**癲癩の子**」を癒すことが出来ず、その子を主のところに連れて来たようです。
- ⇒ 主は、**神信仰**があれば、何でもできると…。

本論；

◇本日、**マタイ書17:14～20節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ17章14～20節**；使徒**マタイ**は、「**あなたは生ける神の子キリストです(16～)**」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ17:14～20節**；塚本訳◆**癩癩をなおす**

「14 (山を下りて)群衆の所にかえると、ひとりの人がイエスに近寄り、ひざまずいて

15 言った、「主よ、どうぞ倅にお慈悲を。癩癩で、ひどく苦しんでおります。幾たびも幾たびも火の中、水の中に倒れるのです。

16 それでお弟子たちのところにつれて来ましたが、なおおしになれませんでした。」

17 イエスは答えられた、「ああ不信仰な、腐り果てた時代よ、わたしはいつまであなた達と一しょにおればよいのか。いつまであなた達に我慢しなければならぬのか。その子をここにつれて来なさい。」

18 そしてイエスが悪鬼を叱りつけられると、悪鬼が出て行って、その時から子はなおった。

19 あとで弟子たちは人のいない時にイエスの所に来て言った、「なぜわたし達には悪鬼を追い出せなかったのでしょうか。」

20 彼らに言われた、「信仰が無いからだ。アーメン、わたしは言う、もしあなた達に芥子粒ほどでも信仰があれば、この山に向かい『ここからあそこに移れ』と言えば移り、あなた達に出来ないことは一つもない。」

21 [無し]と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ17:14～18節**；「**御子イエス・キリスト様**」は、人々の不信仰を嘆かれましたが、実に、私たちは、不信仰のかたまりです。

⇒主が、不信仰を嘆かれたのは、**神**へ全面的信頼を欠いていたからです。

⇒主に御頼りしたのが問題なのではなく、弟子たちが、曾て癒しができたことへの過信が問題でした。**神**信仰は、文字通り、**神**への信頼で、自分の能力や実力に頼ることはありませんでした。

⇒主は、「腐り果てた時代」(よこしまで、ねじ曲がった時代)と(申命32:20、ピリ2:13)、仰せ…。

⇒「信仰僅少」は、牧師をはじめ、すべての信仰者の問題で、癒しが信仰のしるしのように思い込んでいるのです。

⇒A. B. シンプソンは、「癒しではなく、癒し主」という言い方をしましたが、癒しを否定したのではなく、「癒し主」が、優先されることを強調したのです。「救いよりも、救い主、潔めよりも、潔め主、再臨の主、王の王」と言ったのも、同じです。

◇**マタイ17:19～20節**；弟子が癩癩の子の癒しができなかった理由をお尋ねした時、主は、「信仰が無いからだ。アーメン、わたしは言う、もしあなた達に芥子粒ほどでも信仰があれば、この山に向かい『ここからあそこに移れ』と言えば移り、あなた達に出来ないことは一つもない」と、仰せになったのです。

⇒「芥子種の信仰」は、信仰の大小ではなく、**神信仰**の深さ浅さの問題です。

⇒ですから、「もしあなた達に芥子粒ほどでも信仰があれば、この山に向かい『ここからあそこに移れ』と言えば移り、あなた達に出来ないことは一つもない」と、語られたのです。

- ⇒「この山に向かい『ここからあすこに移れ』と言えば、移り、あなた達に出来ないことは一つもない」と、仰せになったのです。
- ⇒ある方が、実際に自分の近くの山に向かって、別の場所に移れと命じたそうですが、びくともしなかったのもので、**神信仰**を捨てたということですが、むしろ最初から**神信仰**がなかったことが明らかになったに過ぎません。
- ⇒このことばは、当時の諺で、「山」は、目前の山積している問題・諸課題を意味していました。
- ⇒命じよ、と言われたのは、主であって、自分の思い通りにせよ、と言われたものではありません。
- ⇒むしろ、私は、問題・課題を多く抱えて、どうすることもできません。主のみこころでしたら、解決の道を示して下さい。それがどのような道でも、私はお従いします。これが、**神信仰**です。
- ⇒私たちの**神信仰の本気度**が問われ、本気で、主に信頼するかどうかです。**神**に信頼すればするほど、自分の無力を感じます。

⇒**マタイ12:18~21**;【口語訳】

- 18 「見よ、わたしが選んだ僕、わたしの心にか
なう、愛する者。わたしは彼にわたしの霊を
授け、そして彼は正義を異邦人に宣べ伝え
るであろう。19 彼は争わず、叫ばず、またそ
の声を大路で聞く者はない。
- 20 彼が正義に勝ちを得させる時まで、いため
られた葦を折ることがなく、煙っている燈心を
消すこともない。
- 21 異邦人は彼の名に望みを置くであろう」。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ17:14～20節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、群衆のひとりの癲癩の息子を癒し、「**悪霊**」を追い出して下さいました。
- ⇒主は、弟子たちをはじめ、周囲の人々の不信仰を嘆かれました。
- ⇒「**癲癩**」は、「月に打たれて病む」というのが、言語の意味だそうで、当時は、月の満ち引きでよく起こるので、何らかの月の影響を受けていると考えたようです。
- ⇒弟子たちは、この度は、「**癲癩の子**」を癒すことが出来ず、その子を主のところに連れて来たようです。

⇒主は、**神信仰**があれば、何でもできると…。

⇒ローマ4:25【口語訳】

25 主は、わたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、よみがえらされたのである。

天の父なる神様。

主が、私たちの罪を贖うために人となり、十字架の死を負ってくださったこと、また勝利の復活を感謝します。

十字架を負ってまでも父との恵みの交わりに生きぬいてくださった主の心を心とする しもべの心を学ばせてください。そのためにも、みことば聴従に徹します。終わりの日に最高の宴に連なれるため、主が委ねてくださった賜物を喜んで用いさせていただきます。主よ、この恵みをいつも喜びつづけられるよう助けてください。

霊的には最暗黒の時代です。滅び行くご自身の羊をあわれんでおられる主を霊の目をもって見させてください。そして、あわれむことの本当の意味を主との霊的な生活を通して、ひとりひとりに分かるように導いてください。

主イエス様のみ名によって、お祈りします。